

経済連情報 12

安全・安心・新鮮でおいしい
静岡県産の農畜産物をお届けします。

● 2023. 12

● NO.1311

本県統一ブランド「うまレタ。」のご紹介 ～静岡レタスの有利販売に向けた取組～



▲「いい夫婦の日」にちなみ県知事に花束を贈呈



▲第32回キウイフルーツ品評会

Main topics

本県統一ブランド「うまレタ。」のご紹介
～静岡レタスの有利販売に向けた取組～ ……01

topics&news

浜松市食肉地方卸売市場が新たな体制にて運営開始
河原崎会長が場内職員を激励 ……03

4年ぶりの開催
市場まつりで県産野菜を販売 ……03

消費地や市場の動向を現地で学習
東京都内でマーケティング研修を開催 ……03

県産花き消費拡大のため
「いい夫婦の日」にちなみ県知事に花束を贈呈 ……04

JA職員の営農指導力向上のために
農薬実践研修会を開催 ……04

JA農業機械事業の持続化のために
農機事業収益力向上研修 ……05

県産新米を神奈川でPR
ヤオコーで新米販促イベントを開催 ……05

「特選和牛静岡そだち」「食通の牛蒡」
合同枝肉共励会を開催 ……05

「東京ゴールド」を審査
第32回静岡県キウイフルーツ果実品評会 ……06

産地と市場の連携による販売力強化
令和5年度系統経済事業研究委員会・流通懇談会 ……06

最新研究紹介

赤色LED照射による切り花カーネーションの収益向上 ……07

営農支援だより

やさいの病害虫 —しおれさせる病害虫— ……09

お知らせ

テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介 ……10
あぐりんく静岡からのお知らせ ……10

本県統一ブランド「うまレタ。」のご紹介 ～静岡レタスの有利販売に向けた取組～

Ⅰ はじめに

10月上旬から5月下旬にかけて県内外に流通する静岡県産レタスは、豊富な日照量の中で育ち、若採りにより鮮度が良いのが特徴です。県内全域で栽培され、令和3年度の本県産野菜では、いちご、メロン、トマト、

ネギに次いで第5位の産出額となっています（出典…農林水産省「生産農業所得統計」）。

今回のメイントピックスでは、これからの時期に出荷の最盛期を迎える静岡県産レタスの統一ブランド「うまレタ。」について産地情勢や静岡県レタス協議会の有利販売に向け



Ⅱ 概要

1. 「うまレタ。」とは

「うまレタ。」は平成30年に商標登録された県内6J Aによる静岡県産

た取組などを交えて詳しくご紹介いたします。

レタスの統一ブランドで、「うまい(美味しい)」、「産まれたて(新鮮)」、「上手い(産地の栽培技術)」の3つの意味が込められたブランド名です。また、句読点は数字の0を連想することから、「心配がない(ゼロ)」といった安心安全な品質の高さを表しています。

令和3年には、静岡県認定食材「しずおか食セレクション」に認定され、東京都中央卸売市場では、令和4年11月から令和5年3月において「うまレタ。」が出荷数量2位、販売金額1位となるなど、品質・量ともに高い評価を得ており、本県の主要品目となっています。

2. 静岡県レタス協議会について

静岡県レタス協議会は、レタスの販売に関する共通の問題を共有し、



▲消費宣伝として県知事に「うまレタ。」を贈呈する神崎智洋会長ら（令和5年11月21日）



▲静岡県産フェアで販売された「うまレタ。」(令和5年1月)

改善等によって有利販売につなげ、生産者の所得向上を目的としています。県内JAの部会、委員会、生産組合に所属する生産者とJAを会員として組織され、本会野菜花卉課が事務局を担っています。事業内容は次のとおりです。

- (1) レタスの販売、流通に関する調査研究、改善に必要な事項
- (2) レタスの消費拡大に関する事項
- (3) 関係機関との連携に関する事項
- (4) その他、この協議会の目的を達成するために必要な事項

令和4年度は、「うまレタ。」ブランドの確立、消費拡大に向け、量販店における静岡県産フェアの開催やキューピーとコラボした消費宣伝活動を実施しました。

表1 静岡県産レタス出荷計画

JA名	作付面積 (ha)			出荷数量 (トン)		
	令和5年度計画	令和4年度実績	前年比 (%)	令和5年度計画	令和4年度実績	前年比 (%)
遠州中央	63	65	97	2,000	2,200	91
遠州夢咲	26	30	87	840	984	85
掛川市	5.5	5.5	100	130	130	100
ハイナン	140	140	100	4,450	4,488	99
大井川	100	110	91	3,200	2,834	113
ふじ伊豆	33	33	100	1,380	1,350	102
計	367	384	96	12,000	11,986	100

III 令和5年度販売対策と産地情勢について

静岡県レタス協議会は、本年度も引き続き実需者、消費者に向けた魅力の発信と消費拡大に取り組みます。

静岡県レタス協議会は10月27日、県農業会館で令和5年度の「うまレタ。」販売対策会議を開き、県、JA、市場などの関係者ら40人が出席しました。会議では、県内各産地のJA

より生育状況や出荷の見込みなどを伝えた他、出荷計画や販売戦略を卸売会社に共有しました。

1. 出荷計画

静岡県レタス協議会は令和5年度の出荷目標を数量12,000トン(表1)、販売金額26億円としました。

2. 産地情勢

本県は冬季の出荷を中心としたレタス産地であり、主に県内6JA(JA遠州中央、JA遠州夢咲、JA掛川市、JA大井川、JAふじ伊豆)で生産されています。本年度は、台風などの被害が少なく、各産地とも生育状況は良好であるものの、近年の温暖化やゲリラ豪雨など、異常気象の発生による栽培環境の変化が課題となっています。

8月に開催された「静岡県レタス生産者研究大会」では、県内JAの生産者と担当職員より、保温資材の最適化、早期防寒の実施など気候の変化に対応した事例を共有しました。

また、静岡県農林技術研究所は、レタスの生育・収穫予測システムを開発し、昨年度より「うまレタ。」の産地で運用試験を開始し、導入を進めています。定植情報や積算温度などから収穫時期を予測し、システムを活用して市場へ収穫日などの情報を提供することで、有利販売や価格安定につなげることが狙いです。

IV おわりに

今回のメイントピックスでは、出荷の最盛期を控える静岡県産「うまレタ。」について詳しく紹介しました。

静岡県レタス協議会では、本年度も「うまレタ。」ブランドのさらなる認知向上と消費拡大に向け様々な施策を展開し、有利販売に取り組んでまいります。静岡レタス「うまレタ。」をぜひご賞味ください。

問い合わせ先

● 静岡県レタス協議会
事務局・みかん園芸部 野菜花卉課
電話・054-384-9714



▲生産者大会で生育・収穫予測システムを紹介する農技研担当者

浜松市食肉地方卸売市場が新たな体制にて運営開始

河原崎会長が場内職員を激励

河原崎友二経営管理委員会会長は11月22日、浜松市東区の浜松市食肉地方卸売市場を視察し、場内職員を激励しました。

西部地区J Aの多大な支援をいただき、同市場では11月1日より本会が(有)浜松ミートから、と畜業務を引き継ぎました。業務委託先である本会子会社の静岡ローディング(株)と連携し、新たな体制で業務を行っています。



4年ぶりの開催

市場まつりで県産野菜を販売

野菜花卉課は10月22日、静岡市葵区の静岡市中央卸売市場の市場まつりに参加しました。

市場まつりの開催は4年ぶりとなり、場内を一般開放し、青果物や水産物の販売、福引き、体験イベントなどが行われました。

本会のブースではみかん、ミニトマト、小松菜、チンゲンサイなどの県産野菜を販売しました。会場は多くの来場客で賑わい、本会のブースで販売した野菜は1時間ほどで完売しました。

また、入会2年目の若手職員3人が研修の一環として販売に参加し、普段とは違う業務に緊張しながらも笑顔で接客対応を行いました。



消費地や市場の動向を現地で学習

東京都内でマーケティング研修を開催

10月19日と20日の2日間、野菜花卉課は、東京都の大田市場などで「令和5年度農協指導・販売担当者マーケティング研修会」を開き、県やJ A、本会の担当者ら17人が参加しました。

研修は、消費地での青果物流通の現場を視察し実務に役立てることが目的で、現地視察として豊洲市場の「東京シティ青果」、「FRESCOヨコハマ」の加工場施設、「J A全農青果センター」、大田市場の「東京青果」や競売場などを視察。市場やJ Aなどから仕入れた青果物や花きを取引先の要望に合わせてパッキングしている作業現場などを見学し、

各社の担当者から説明を受けました。また、本会からは、青果物販売などの事業の取組を紹介しました。

参加者は「研修を通して産地と消費地のつながりを理解し、産地での自分の業務の役割を再認識できた」と話しました。



▲▼市場を視察する参加者ら



県産花き消費拡大のため

「いい夫婦の日」にちなみ県知事に花束を贈呈

静岡県花卉園芸組合連合会（一社）ＪＦＴＤ花キューピット静岡支部、花咲くしずおかフラワーネットワーク会議は11月6日、静岡市葵区の県庁を訪れ、静岡県産のバラやガーベラ、カーネーションなどの花束を川勝平太知事と森貴志副知事に贈呈しました。11月22日の「いい夫婦の日」にちなみ花き生産者と生花商組合などが連携し、県産花きの消費拡大をＰＲしました。花束を贈呈した同連合会の生産者らは「資材や燃油の高騰など生産は厳しい状況だが、イベントなどの需要に応え、消費につなげたい。」と話し、川勝知事は「ふじのくに『花の都しずおか』にふ

さわしく花のある生活が当たり前となるよう、県としても消費拡大に協力したい。」と話しました。



ＪＡ職員の営農指導力向上のために 農薬実践研修会を開催

肥料農薬課は11月10日、島田市のシンジエンタジャパン(株)技術普及センターで「令和5年度農薬実践研修会」を開催しました。研修会は、午前と午後の２部開催し、県内ＪＡの営農指導、渉外などの担当者ら65人が参加しました。

本研修では生産現場に近い実践的な研修にするため、メーカーと連携して生きている害虫や作物の病害虫被害が実際に確認できるブースを４カ所設けました。また、各ブースでは防除指導、防除提案に活用できる技術を本会職員が説明しました。

受講者は、除草剤の薬剤特性や防除のタイミング、病害虫の生態など



について学び、農薬使用の理解を深めました。



J A 農業機械事業の持続化のために 農業機械事業収益力向上研修

農業機械課・J A 支援課は11月1日、菊川市の静岡県農業研修会館で「農業機械事業収益力向上研修」を開き、県下J A 農業機械センター長ら17名が参加しました。

研修は中小企業診断士を講師に迎え、講義とグループディスカッションを行いました。

県内J A の農業機械センターでは、収支改善や職員の高齢化、若手職員の育成が課題となっており、参加者は、農業機械事業の持続化のため、修理整備の重要性や日報・伝票チェックなど、センター長の業務が職場環境に与える影響を学びました。

参加者は「修理整備の課題解決が農業事業継続にとって重要であることを再認識できた」と話しました。



県産新米を神奈川でPR ヤオコーで新米販促イベントを開催

食糧課は、10月28日と29日の2日間、首都圏を中心にスーパーマーケットを展開する(株)ヤオコーの神奈川県内の2店舗で静岡県産米の販促イベントに参加しました。

取り組みはヤオコーによる「米の日」の売上拡大と県外消費者へ県産米の認知向上を図る目的。

小田原ダイナシティ店にはJ A ふじ伊豆の「御殿場こしひかり」、藤沢柄沢店には「静岡そだちこしひかり」が店頭の特設コーナーに並びました。イベント期間は、試食会などを通して来店客に県産米のおいしさをPRしました。

食糧課は「県産米の県外拡大の第一歩とすべく、積極的に県産米のファンを獲得したい。」と話しました。



▲店頭に並んだ御殿場こしひかり

「特選和牛静岡そだち」「食通の牛葵」 合同枝肉共励会を開催

特選和牛静岡そだち認定農場の会（事務局…西部畜産センター）と、食通の静岡牛葵協議会（事務局…畜産課）は11月13日、浜松市東区の浜松市食肉地方卸売市場で、「第34回特選和牛静岡そだち枝肉共励会」と「第23回食通の牛葵共励会」を合同で開き、生産者やJ A 職員ら32人が出席しました。

共励会では、交雑種の「葵」12点、黒毛和種雌の「静岡そだち」15点が出品されました。最優秀賞は、葵がJ A 大井川の杉村昭彦さん、静岡そ



▲▼出品された枝肉の品質を確認する関係者

だちはJ A とびあ浜松の菅本徹さんが受賞しました。

審査した日本食肉格付協会浜松事業所の石川悠未所長は「最優秀賞の枝肉は、モモ、ロースの厚みがあり、光沢と締まりも良かった。全体としても肥育技術の向上とブランド強化に取り組み、良い牛が揃った。」と講評しました。

受賞者は次のとおり（敬称略・カッコ内はJ A 名）。

特選和牛静岡そだち

- ・最優秀賞 菅本徹（J A とびあ浜松）
- ・優秀賞 尾藤和彦（J A みつかり）
- ・優秀賞 森清馬（J A とびあ浜松）

食通の牛葵

- ・最優秀賞 杉村昭彦（J A 大井川）
- ・優秀賞 勝山畜産（J A 静岡市）
- ・優秀賞 山名邦雄（J A 大井川）



「東京ゴールド」を審査 第32回静岡県キウイフルーツ果実品評会

11月20日、静岡県落葉果樹振興協会（事務局・柑橘果樹課）は、県農業会館で「第32回静岡県キウイフルーツ果実品評会」を開催し、ＪＡ静岡市の海野博敏さんが金賞を受賞しました。



▲出品物の品質を確認する審査員▲



審査対象の品種は「東京ゴールド」で、県内３ＪＡから計12点が出品されました。

静岡県果樹研究センターの松浦英之センター長が審査長を務め、県職員や市場関係者ら審査員９人が、形状や玉揃い、色沢などの外観と食味、糖度などを審査しました。出品物の平均糖度は15.0度、最高糖度は16.4度でした。

上位入賞者は次のとおり（敬称略）。

- 金賞
 - ・静岡県知事賞
 - ・静岡県経済農業協同組合代表理事 理事長賞
 - ・静岡県京浜地区果実流通協議会会長賞
- 海野博敏（ＪＡ静岡市）
- 銀賞1席
 - ・静岡県経済産業部長賞
- 森 龍介（ＪＡ静岡市）
- 銀賞2席
 - ・静岡県農林技術研究所果樹研究センター長賞
- 立川知多（ＪＡしみず）
- 銅賞
 - 日吉義茂（ＪＡふじ伊豆）
 - 萩原直人（ＪＡふじ伊豆）
 - 杉山 進（ＪＡしみず）

産地と市場の連携による販売力強化 令和5年度系統経済事業研究委員会・流通懇談会

みかん園芸部と企画管理課は11月20日、静岡市内で「令和5年度系統経済事業研究委員会・流通懇談会」を開き、県、ＪＡ、卸売会社の役員ら約50人が出席しました。

県と県内ＪＡが一体となり、主要取引先とのパートナーシップの構築による販売力強化を図り、県産農産物の品質の良さを発信して消費拡大と農家所得の向上につなげる目的。

懇談会では、本会より、青果・柑橘・花きの秋冬期出荷計画と販売戦略を共有した他、資材高騰による経営費の変化について、県産物の各品



▲挨拶する石川和弘代表理事

目で生産にかかるコストが増大していることを説明しました。

また、県内のミカンやレタスなど6品目の生産者の声をビデオレターで紹介し、労働力不足、資材高騰、気候の変化など厳しい栽培環境で生産量の確保が課題となっていることを伝え、卸売会社へ生産コストの販売価格への反映と消費拡大の支援を求めました。卸売会社は「消費宣伝の強化などを通して、販売面の努力をしていく」と応え、産地へ品質の維持や安定出荷を求めました。



▲生産者からのビデオレターを視聴する関係者

農林技術
研究所
だより赤色LED照射による
切り花カーネーションの収益向上

私が紹介します！

静岡県農林技術研究所
伊豆農業研究センター
生育・加工技術科 研究員

藤井 俊行

一 はじめに

カーネーションは静岡県で大正時代から栽培されてきた伊豆地域の特産花です。代表的な作型では、6月に発根苗を定植し、10月～翌年5月頃まで摘心後または採花後に発生する側枝を連続して採花します（図1）。各側枝の生育を促進させることにより株当たりの収量は増加します。カーネーションは相対的長日植物で、日長が長いほど開花が促進されるため、長日処理は収益改善に有効な手法と考えられますが、従来の白熱電球を用いた処理では、茎の軟弱化といった品質低下が起きているため、生産現場ではほとんど実施されていません。

近年、農業現場では、特定の波長の光を照射できるLEDの活用が始まり、他の花きで赤色LEDや遠赤色LEDによる開花調節が行われ始めたことに着目し、これらによる長日処理がカーネーションに及ぼす影響を調査し、収益を向上させる光照射

射技術を開発しました。

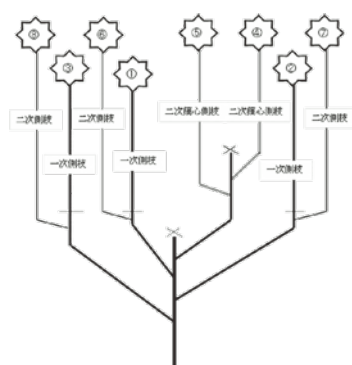


図1 カーネーションにおける摘心と側枝の模式図
①から⑧は平均的な収穫順序

二 光照射試験の概要

(一) 供試品種

試験には静岡県伊豆地域での栽培が多い、ムーンライト（以下ML）、（早生大輪種）、チェリーテッシノ（以下CT）、（中～晩生スプレー種）の2品種を使用しました。

(二) 使用したLED電球

赤色LED、遠赤色LEDともに農業用として開発された製品で（図2）、光の波長の分布は、のとおり赤色LEDはピークが620～

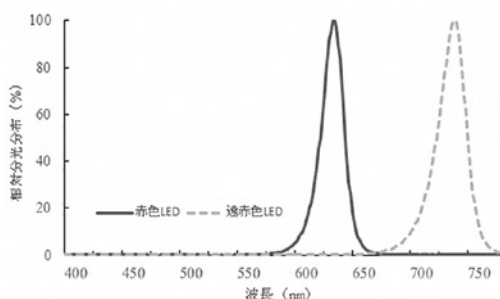


図3 供試光源の波長分布

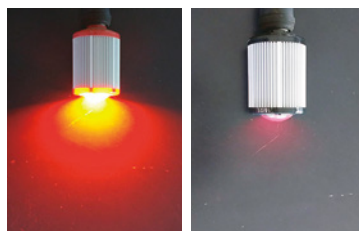


図2 供試光源の点灯中の様子
左：赤色LED（DPDL-R-9W）
右：遠赤色LED（DPDL-FR-9W（現在販売中止））
（上下ともに鍋清株式会社製）

630 nm、遠赤色LEDは730 nm、740 nmでした（図3）。

(三) 処理方法

地上1.5 mの高さに3 m間隔でLEDを真下に向けて設置し、終夜照射処理と朝晩4時間ずつ点灯する16 hr日長処理を行いました。照射処理は摘心直後である8月1日から調査終了までとしました。

三 到花日数に及ぼす影響

到花日数への影響は、赤色光、遠赤色光どちらもでも見られ、自然日長と比較し、光照射処理で開花が早まりました（データ略）。波長間で比較すると、遠赤色光が赤色光より到花日数が大きく減少しました。照射時間でみると16 hr日長処理より終夜処理が開花促進効果が高いことが分かりました。

四 収量に及ぼす影響

赤色光、遠赤色光いずれにおいても自然日長と比較し、合計採花本数が増加しました（表2）。時期別に

見ると、遠赤色光では12月までの採花本数が増加しても、その後減少する時期もあることから、処理により側枝の発生が減少もしくは生育が停滞する可能性があります。赤色光では採花本数が減少する時期は無く、合計採花本数が増加することから、側枝の減少や生育抑制は無いと見られます。処理時間で見ると、MLは16 hr日長処理と終夜処理で差は見られませんが、CTは終夜処理でより増加しました。このことから、照射時間は16 hr日長処理で採花本数

表2 赤色または遠赤色LEDの照射がカーネーションの1株当たり時期別採花本数に及ぼす影響

供試品種	処理区 ²	収穫開始～12月 (本/株)	1月～3月 (本/株)	4月～5月 ³ (本/株)	計 (本/株)
ムーンライト (ML)	赤色終夜	2.8 ab	2.0 b	2.0 ab	7.0 a
	赤色16 hr	2.9 ab	2.0 b	2.1 ab	7.3 a
	遠赤色終夜	3.4 a	2.7 a	1.4 b	7.5 a
	遠赤色16 hr	3.0 ab	1.8 b	2.4 a	7.2 a
	自然日長(対照)	2.5 b	1.5 b	2.2 a	6.2 b
有意性		*	**	*	**
チェリーテッシノ (CT)	赤色終夜	1.7 b	1.7 ab	1.8	5.3 a
	赤色16 hr	1.1 bc	2.3 a	1.5	4.8 ab
	遠赤色終夜	2.9 a	1.1 b	1.3	5.3 a
	遠赤色16 hr	1.0 bc	2.2 a	1.3	4.5 ab
	自然日長(対照)	0.4 c	1.9 a	1.7	4.1 b
有意性		**	**	n.s.	*

² 摘心から栽培終了までの期間、発光ピークが赤色は630 nm付近、遠赤色は730 nm付近のLED電球を終夜は16:00から8:00、16 hrは4:00から8:00と16:00から20:00に点灯した。各処理区の供試株は18株、x3反復で、全ての株について各側枝を調査し平均値を示した。

³ 2019年5月8日まで収穫

増加の効果があると考えられますが、より長い終夜処理で効果が高くなります。

五 品質に及ぼす影響

カーネーション切り花において茎の堅さは重要ですが、秋季の切り花は軟弱になりやすいことが知られています。切り花を花の先端から45 cmの位置で水平に支え、下垂した角度を「下垂度」と呼び、これが20°を超えるものは「軟弱花」とされ、販売できないか大きく価値が下がります。特に秋季に茎が軟弱になりやすい供試品種、CTにおいて、赤色光を照射することで、軟弱花が自然日長より減少する傾向を示しました。遠



図4 赤色または遠赤色LEDを照射した切り花の様子(品種:「チェリーテッシノ」、2019年1月8日撮影)
(左から自然日長、赤色終夜、赤色16 hr、遠赤色終夜、遠赤色16 hr)

表3 赤色LEDがカーネーションの収益に及ぼす影響(10aあたり、単位:千円)

	収量 ^z (本/株)	販売額 ①	コスト② 販売コスト ^y 電気代 ^x LED償却 ^w	販売額-コスト (①-②)
LED導入前 (A)	6.2	6,200	1,441	4,759
LED導入後 (B)	7.2	7,200	1,673	5,527
差引 (B-A)	1	1,000	232	568

^z 栽培密度20,000株/10a、切り花単価50円/本を想定。

^y 収量増加に伴う収穫～調整作業時間の増加はコストとして算入していません。

^x 「電気代」は21円/kWhで試算。朝晩4時間ずつ点灯する「16時間日長処理」を想定。

^w LEDの設置間隔(個数)は、2ベッドに1列、3m間隔を想定(120個/10a)。

^w 「LED償却」はLED電球の導入にかかる費用を電球の耐用年数とされる10年で除した値。

赤色光の照射では、茎質の改善効果は見られませんでした(図4)。

六 収益に及ぼす影響

収量増加と品質向上を同時に可能とする赤色LED照射が収益に及ぼす影響について検討しました。LED導入や電気代により、年間10aあたり約44万円のコストが増加しますが、収量増加により年間10aあたり100万円販売額が増加するため、10aあたり約56万円の収益改善効果があると試算できました。

おわりに

現在、農業用LEDは多くの商品が販売されており、「害虫を防ぐ」「光合成を助ける」等の効能をうたい、波長も様々です。今回カーネーションの収益向上には赤色が有効としましたが、複数の波長が混合されたLEDで効果が上がっている事例もあります。切り花カーネーションでは、切り花品質に悪影響をあたえず長日処理をするのがポイントなので、遠赤色光を含まない光源もしくは、遠赤色と品質低下を補う効果がある波長との混合光源を使用するのが有効だと考えられます。また今後、燃油削減や灌水施肥の適正化のため、温度や灌水・肥培管理等と合わせることで、より実用的な収益改善策の構築が可能になると期待しています。

【参考文献】

加藤智恵美・勝岡弘幸・馬場富二夫・稲葉善太郎: 2023. 赤色または遠赤色LEDの照射がカーネーションの生育および開花に及ぼす影響(園芸研223544)

連絡先

静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センター 生育・加工技術科
Mail: agriizu@pref.shizuoka.jp
TEL: 0557-95-2341

やさいの病害虫

―しおれさせる病害虫―

このところ毎年猛暑の夏が続
き、菜園の野菜がしおれてしまっ
た経験をお持ちの方も多いかと思
います。暑さや乾燥によるしおれ
は、水やりで回復できますが、同
じしおれでも病気や害虫によるも
のもあり、注意が必要です。今回
は、作物をしおれさせる病害虫と
その診断のポイントをいくつか紹
介します。

青枯病 あおかれびょう

土中に棲息している細菌によっ
て引き起こされる病気です。盛夏
期に、順調に生育しているように
見えた作物が突然しおれ、回復



▲トマト青枯病



▲つる割病発病株メロンの茎断面



▲つる枯病が発病したメロンの茎(つる)



▲らっかせい白絹病発病株の株元



▲鉢植えに発生したコガネムシ幼虫

することなくそのまま枯死しま
す。多くの萎凋性(しおれる)病
害では、昼間しおれ夜回復するこ
という経過の末枯死に至ることが多
く、この間に葉が黄化するのです
が、青枯病は進行が急で葉が青い
まま枯死にいたるので、この病名
がついたと思われる

つる割病 われびょう

ウリ類の地際の茎に発生します。
糸状菌(カビの仲間)によって引
き起こされ、維管束が侵されます。
地際の茎には白くピンクの白い粉
を吹いたように大量の胞子を形成
します。また、茎を鋭いナイフで
切断して断面を観察すると、病原
菌に侵されて維管束が茶褐色に変
色しているようすが観察されます。

つる枯病 かれびょう

つる割病と同じようにウリ類に
発生します。上の2種類の病害は、
茎や根を侵し植物体そのものを枯
死させますが、つる枯病は葉や茎
(つる)などいろんな場所を侵し
ます。たまたま茎や地際に発病し、
病気が維管束にまで達すると、そ
こから先は枯れてしまい、被害が
大きくなります。

白絹病 しらきぬびょう

多種の作物の株元を侵します。
しおれた作物の地際から地表にか
けて、白いカビ(菌糸束)に覆わ
れます。同時に、植物の組織上や
地表に直径1mm弱の褐色の小粒
(菌核)を大量に形成します。菌
核は耐久性があり、土中で数年以
上感染力を維持します。

コガネムシ類

コガネムシ類の幼虫は土中に潜
み、土中の有機物や植物の根を食
べて成長します。根が食害される
と、生育不良やひどい場合は枯死
に至ります。鉢植えやプランター
栽培では被害が激しく出ることが
あります。

これら以外にもいくつかの種類
のしおれさせる病害虫があります。
作物がしおれたら、株元、茎の断
面や根の状況などを観察し、原因
を絞っていく必要があります。

(生産振興開発課技術コンサルタント 市川健)

「しずおかごはんが食べたい!」(テレビ静岡)

担当:食糧部 食糧課 (TEL:054-284-9737)

静岡県産米麦流通連絡協議会(事務局:食糧部)は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」(テレビ静岡・全11回放送)に協賛し、県産米のPRを行っています。

令和5年度の第7回目(11月18日)の放送では、お笑い芸人のモグライダーが御前崎市と牧之原市から「高天神コシヒカリ」の令和5年産の新米を紹介しました。「高天神コシヒカリ」は、厳しい栽培基準で徹底管理され、減農薬、有機肥料にこだわって栽培された地域のブランド米です。

番組では、ビデオメッセージで出演したJA遠州夢咲の生産者グループ、野中幸一さんと鷺山哲朗さんが「小笠山山系からの伏流水を受け、清らかな水で作った美味しいお米をぜひ食べてみてください」と話し、「高天神コシヒカリ」をPRしました。



【営農ナビ】

文字が大きく見やすくなってリニューアルしました!

あぐりんく静岡からのお知らせ

県内
JA限定

生産・事業推進に役立つ情報が満載!!

農産物安全分析センター

分析メニュー、申込書、分析フロー(手順)を掲載しています。分析の際はコチラから!

経済連肥薬通信

更新

経済連肥薬通信12月号

経済連コンサルタントによる技術情報

産地情勢(青果)

トマト、いちご、レタスの各産地から寄せられた生育・出荷状況を掲載しています。

販売情報

東京、名古屋、大阪の青果・花卉の概況を掲載しています。

●イントラから利用できます。

～他にも、農畜産物別の情報なども充実～

担当:営農総合対策部 生産振興開発課 (TEL 054-284-9729)



**JA静岡経済連直営店
駿府の肉処 静岡そだち**

静岡市葵区追手町2-15

MRK追手町2階（1階セブンイレブン）

●営業時間

ランチ 11:30～14:00 (L.O.13:30)

ディナー17:00～22:00 (L.O.21:00)

●年末年始の営業について

店休日 12月31日（日）、1月1日（月）、1月4日（木）

※1月2日（火）、1月3日（水）はディナーのみ営業

1月5日（金）以降は通常通りの営業となります

電話予約
問い合わせ ☎054-251-4129



～特選和牛静岡そだち～

JA静岡経済連が認定する指定
農場で、数々のこだわりをもっ
て育てた牛肉です。



静々動々

県産食材・地産地消にこだわり
「静々動々」と御用意いたしました。
食で感じる静岡をどうぞお楽しみく
ださい。

担当：営業部 流通開発課（TEL：054-284-9728）

